学校・地域・大学との連携により児童の自然愛護・郷土愛を育む

砂川の淡水魚に親しみ保護する会

活動の目的

郷土を流れる砂川で採集した淡水魚を飼育・観察することを通して、砂川の環境保全を考えることにより、児童に郷土を愛する心情を育てる。

活動の内容及び経過

「豊かな恵み砂川の・・・」と校歌に歌われている「砂川」には、いろいろな種類の淡水魚が生息しているにもかかわらず、それらの淡水魚に興味がもてないまま今日に至っている状況があった。そこで、児童自らによる淡水魚の採集や飼育活動により自分たちが飼育している魚が泳ぐ「砂川」への意識を高めていきたいと考えた。

環太平洋大学の全面的な協力を得て、5年生の総合的な学習の時間に「砂川環境調査隊」というテーマを掲げ学習を進めてきた。2019年度は、淡水魚の採集・飼育・環境調査・学習成果発表会に加え、砂川上流の小学校とも遠隔教育システムを活用し、学習成果の交流を図った。また、児童の学習の成果をもとに、教員がアイデアを出し合い、落語読本「砂川ばなし今昔（いまむかし）」を学習成果物として作成した。

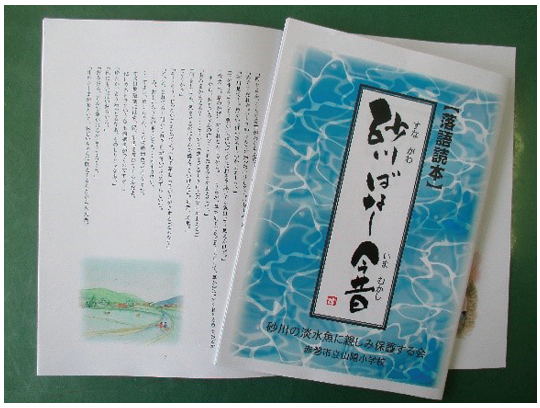
活動の成果・効果

「砂川の生き物調査」では、環太平洋大学の協力により「淡水魚観察ノート」を用意し、淡水魚の説明や生き物調査、採集・観察・水質検査の説明、観察補助や安全確保などの協力をいただいた。また、学習成果発表会に向けても、まとめ方や表現の仕方について多くのアドバイスをいただいた。大学との連携を進めることで、児童は安心して活動に取り組むことができたり、分からないことや知りたいことをタイムリーに尋ねることができたりした。また、専門家（岡山淡水魚研究会の方）をゲストティーチャーに迎え、採集した淡水魚の生態や特色について学習することにより、砂川に住む身近な生き物について愛着ももてるようになり、飼育活動への積極的な態度も多く見られるようになった。

砂川に住む淡水魚に触れることを始まりとして、水質検査を行ったり、護岸工事に着目したり、砂川の歴史に触れたり、環境ポスターづくりに取り組んだりすることで環境保護への意識も高まってきている。

今後の課題と問題点

今までの調査活動・探求活動・表現活動により高まってきている環境保全の意識や「砂川」への愛着の心情を維持するためにも、児童自らの活動による成果物「砂川生き物図鑑」（仮称）を作成したり、砂川上流の学校との交流を図ったりすることで、「砂川」を守るために自分にできることを見付け、具体的に社会に働きかけるといった行動化を図りたい。



これまでの取組の成果を、SDGs（持続可能な開発目標）の視点から、児童が成人した頃の2030年の砂川の姿（生態系・水質・治水）としてまとめていきたいとも考えている。

●代表者：坪井秀樹　●所在地：赤磐市上市
●TEL：086-955-0049　●E-MAIL：sanyo-sho@city.akaiwa.lg.jp
●URL：http://www.sanyo-es.city.akaiwa.okayama.jp/
●設立年：2017年　●メンバー数：63名